

京都デザイン賞

KYOTO
DESIGN
AWARD
2010

新しい 京都のデザイン

表彰式・シンポジウム

日時 平成22年10月30日(土)
場所 京都府庁 旧本館2階正庁



ご挨拶

京都デザイン協会は、43年前に京都から世界へ、デザインで新しい波を起こしていこうという主旨で設立されました。今回のデザイン賞には103点の作品が全国から寄せられ、厳正なる選考の結果、38点の入選作品と8点の入賞作品を選ばせていただきました。

デザイン協会は小さな団体ですが、デザイン力で京都、そして日本を元気にしていきたいということで頑張っています。

今日の出会いをきっかけに、交流会では会員との懇親も深めていただき、近い将来メンバーに加わっていただきたいとも考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



奈良 磐雄

(社団法人京都デザイン協会 理事長)

京都デザイン賞2010 表彰式

日時 平成22年10月30日(土) 16:00～ 場所 京都府庁 旧本館2階正庁



司会 ただ今より表彰式に入らせていただきます。まず、京都デザイン賞2010に数多く応募していただきました作品の中から、栄えある大賞を受賞された方からの発表です。プレゼンターは当協会の奈良理事長にお願いします。

奈良 京都デザインアワード2010 京都デザイン賞大賞、作品名「KRP9号館サイン計画」。株式会社日建スペースデザイン 米澤研二様、今井充彦様。

社団法人京都デザイン協会主催の京都デザイン賞2010において審査の結果、入賞されたことをここに証します。

平成22年10月30日、社団法人京都デザイン協会理事長 奈良磐雄。おめでとうございます。

司会 続きまして京都府知事賞のプレゼンターを、京都府商工部労働観光部染色・工芸課課長高屋奈尾子様をお願いしたいと存じます。高屋様よろしくお願いたします。

高屋 賞状A部門、京都嵯峨芸術大学 董衍様。作品名「還・return」。

あなたの作品は社団法人京都デザイン協会主催の京都デザインアワード



2010京都デザイン賞において優秀と認められましたので、これを証します。

平成22年10月30日、京都府知事 山田啓二。代読で失礼します。おめでとうございます。

賞状B部門、L.V.M. 計画一級建築士事務所 井上昌彦様。作品名は



「小さく広い家」です。おめでとうございます。

司会 高屋様有難うございました。続きまして、京都市長賞の方に入りたいと思います。プレゼンターは京都市産業観光局商工部伝統産業課染色係長、瀬野伸輔様をお願いしたいと存じます。瀬野様よろしくお願いたします。

瀬野 賞状、京都市長賞A部門、曾和治好様、Hal SOWA Ph.D. 作品名「garden-nano ver.3.0k」。

あなたの作品は社団法人京都デザイン協会主催の京都デザインアワード2010京都デザイン賞において優秀と認められましたので、これを証します。



平成22年10月30日京都市長 門川大作。代読で失礼します。おめでとうございます。

賞状。作品および製品部門、株式



会社丸二様。作品名「karakami kit」。おめでとうございます。

司会 瀬野様有難うございました。引き続きまして商工会議所会頭賞の方に入りたいと思います。プレゼンターは京都商工会議所産業振興部課長神保泰宏様をお願いしたいと存じます。神保様よろしくお願いたします。

神保 賞状A部門、「季箱」、太田道夫殿。

あなたは社団法人京都デザイン協会主催による京都デザイン賞2010において優秀な成績を収められましたので、これを証します。

平成22年10月30日、京都商工会議所会頭 立石義雄。代読です。おめでとうございます。



賞状、B部門、「刻鋺（こくはん）」、川並鉄工株式会社殿。おめでとうございます。

司会 神保様有難うございました。最後になりましたが、デザイン賞に学生賞を設けております。この賞のプレゼンターは、再び当理事長の奈良理事長とさせていただきますと思います。

奈良 京都デザインアワード2010 京都デザイン賞学生賞、作品名



「Meat×Grass」。京都造形芸術大学様。

社団法人京都デザイン協会主催の京都デザイン賞2010において審査の結果、入賞されたことをここに証します。

平成22年10月30日、社団法人京都デザイン協会理事長 奈良磐雄。おめでとうございます。

司会 それ以外に入賞作が多数ございますが、時間の関係上、お名前だけと呼ばせていただきます。

長谷川真波さん、京都嵯峨芸術大学、「京Rコード」。上本佳波さん、京都嵯峨芸術大学、「待ち合わせチョコ」。玉村有以、U・N・I Design&Project、「清包～さやけきくるみ～」。藤尾友理子様、京都嵯峨芸術大学、「京つつみ」。堀野美雪様、「京間灯」。株式会社丸二、「アクリル行灯」。南丹市社会福祉協議会あじさい園、「ど・丹波クッキーシリーズ」。

続きまして青山高久様、谷真也様、中村圭佑様、森田久美子様、渡部明彦様による「南区東九条地域の辻の活性化計画」、京都造形芸術大学の学生でいらっしゃいます。続きまして吉靴房、「『御沓（おくつ）』吉靴房×sou・sou」。絹あそび橋本修治商店、「絹ふくれ褌」。杉本幸子様、「正絹スカーフ」。宮井株式会社、「男ふろしき」。大和功典様、「ひょうたん→コマ」。株式会社茶匠井六園、有心銘茶「禪の詩（こころ）。京すだれ川崎、「波襲（なみひだ）。株式会社熊谷設計事務所（熊デザイン工房）、「手にしっかりと

なじむステッキ（杖）。有限会社篠ファーム、「世界の茄子シリーズ スティックテイスト」。株式会社松栄堂、「Xiang Do ～ un tiers ～（シャンドゥ-アン ティエル）。株式会社尚雅堂、「携帯写経御道具『阿吽』」。有限会社西村松寿堂、島明彦様、「銅 燈花器」。有限会社畳工房ヨシオカ、吉岡芳憲様、「アート畳。円形薄畳。ハート形薄畳」。株式会社大林／株式会社E-DESIGN、「京染会館／京染の庭」。アルバック株式会社地域計画建築研究所、「白梅町の家 和と洋のコラボ」。究建築研究室、柳沢究様、「荒壁を廻る家」。株式会社高松伸建築設計事務所、「同志社小学校」。株式会社竹中工務店、須賀定邦様、「福寿園京都本店」。株式会社竹中工務店、鍋谷めぐみ様、「ニッセン四条新町ビル」。株式会社日建設計、「KRP9号館」。株式会社松田平田設計+株式会社高松伸建築設計事務所、「京都市伏見区総合庁舎」。最後になりましたが、森田一弥建築設計事務所、「Shelf-Pod/君府亭」。おめでとうございます。

入選者の代表として、「正絹スカーフ 男ふろしき」を受賞されました宮井様、前の方へよろしくお願いたします。

奈良 京都デザインアワード2010 京都デザイン賞入選、作品名「男ふろしき」、宮井株式会社様。

社団法人京都デザイン協会主催の京都デザイン賞2010において、審査の結果、入選されたことをここに証します。



平成22年10月30日。社団法人京都デザイン協会理事長 奈良磐雄。おめでとうございます。

京都デザイン賞 2010 シンポジウム 新しい京都のデザイン

日時 平成22年10月30日(土) 17:00 ~ 場所 京都府庁 旧本館2階正庁



パネリスト 新井 清一(建築家・京都精華大学 教授) 島田 昭彦(株式会社クリップ)
滝口 洋子(京都市立芸術大学 准教授) 奈良 磐雄(京都デザイン協会 理事長・審査委員長)
北條 崇(プロジェクトデザイナー)
コーディネーター 土居 英夫(京都デザイン協会 常務理事)

土居 今年の京都デザイン賞2010は、応募作品数が103点ございました。第一次審査、第二次審査は10月9日(土)、本審査が10月10日(日)に行われ、その中から入賞8点、入選作品30点が決定しました。

それでは、京都デザイン賞2010の作品選考に当たっていただいた審査員の方々から入選作品についてのお話を伺いたいと思います。

新井 まず、僕の判断基準を簡単に

お話しします。僕も海外に行くことが多いのですが、京都という名前は、それ自体ブランドとしての力があります。ですから、「京都」というキーワードは外せないのではないかと思います。それに加えて、自分なりの基準として、新鮮さがあるか、アピールがあるかということを重視しました。その結果、非常に迷いましたが、大体皆さんの意見と同じような結果が得られたと思っています。

京都デザイン賞には平面的なも

のから建築まで、いろいろな部門がありますが、審査の仕方は少し変わっていると思います。まず、建築や空間は、通常のようにパネルでプレゼンすることはできないので、どのように画面を有効に使って表現するかが第1のテーマとなります。また、実物があるものはそこで見られますが、ビデオでも見ることができます。さらに、グラフィックなどは、実際にそこにあるものを媒体として、実際の使われ方に関していろ

いろな見方ができます。こういう違う土壌にあるものを評価するのは非常に難しいのですが、僕は自分なりの基準を設定して選ばせていただきました。

滝口 最初審査会場に入ったときには100点以上の出品作品が会場いっぱいに並んでいますので、非常に迷います。いろいろなジャンルの作品がありますし、学生のものもプロのものもあります。提案だけのものもあれば、実際に建築物として出来上がっているものもあります。それを同じ審査の対象にしなければならぬところに難しさがあります。また、審査員も多数いますが、皆それぞれ専門とするジャンルが違います。それでも最初に、大体この作品がいかほど粗く選んでいき、点数が多いものをほかの審査員の先生方と協議をしながら賞を決めていきました。

やはりいいものは、結果的にどなたがご覧になっても選ばれるケースが多いです。ただ、順位は違うことはありますが、何か引っ掛かるというところでは共通したものがあります。私はそこに、これからのデザインの可能性を感じているのです。特に日本では、今までデザインというとプロダクトデザイナー、ファッションデザイナー、建築家というふうに、非常に分野が狭くなっていく傾向がありました。これを将来的にもう少し広げてチームでデザインについて考えていく。デザインというものは、その物の色、形、空間だけでなく、人間の生活のためにあるということが大前提にありま

すので、もう少し広い視野で、地域的ななかかわりや人の長いライフサイクルを通じてのデザインとして提案ができるのではと思いました。

北條 私は主にプロダクトの関係を中心に見させていただきました。本当に皆さんレベルが高くて、非常に選ぶのに苦労したというのが第一の感想でした。審査員全員が点数を付け合って、それから合議の上で決めていったのですが、白熱した議論の末に皆が納得いくものを選んだというのが審査の風景です。

新井先生もおっしゃっていたのですが、やはりデザイン賞を選ぶとき、「京都」が一つキーワードになるだろうということがありました。この賞の特徴に、伝統産業の方が出されていたり、非常にハイテクな工業製品が出されていたりと、応募作品のジャンルが幅広いということがあります。また、計画段階のものが出されているA部門と、実際に商品として流通しているものが出されているB部門があり、これまた非常に幅広い中から選ばなければいけないというのが、この賞の特徴だと思います。

ただ、そういう状況が京都というまちの状況そのものを表している

ような気がして、そういう中から選ぶことに、京都デザイン賞としての特徴があると感じています。

審査の中では、単に色・柄・形がいから選ぶということではなく、それがどう生活にかかわっていくのか、どう世の中を変えていくのかという広い意味でのデザインということで、インパクトを与えるものを選ばせていただきました。

島田 僕は全分野共通して見させていただきました。前職で雑誌の編集者等をやっておりましたので、皆さんの選ばれたものがどう世の中にインパクトを与えるものなのか。また、話題に出て来るようなものなのか。そのような視点も盛り込んで見させてもらいました。やはり今の時代、役に立つか楽しいか、これがポイントだと思っています。また、そのような中で、個々それぞれに特徴やポイントがあって、それが世の中に発信されたときに、日本国内だけでなく世界に通用するものなのかという部分も見たつもりです。

奈良 審査委員長という重要な役割をいただきましたが、これだけの外部審査員の先生方をお招きしているので、審査をスムーズに進める進行



係というのが私の役割の一つでした。グラフィックデザイナーの杉崎真之助さんにも審査していただきましたが、今日は法事でどうしても来られないということです。ご容赦ください。杉崎先生は審査の時、グラフィックデザイン分野のように、ぱっと見て良いか悪いか分かる分野と、建築のように三次元の世界で多角的な視点から見なければ判りにくい分野のように、全然違うジャンルから選ばせていただく難しさをあらためて感じました、とおっしゃっていました。

そのような中で、これはと思えるインパクトの強いもの、そして生活の中にどういう影響を与えていくのかという視点で選ばせていただきました。**土居** 次に、それぞれの審査員の方から、専門分野の作品に限らず、印象に残った作品に関して、お1人ずつお話しいただきたいと思います。

新井 まずは、大賞を取られた株式会社日建スペースデザインの「KRP9号館サイン計画」です。サインが前面

に出てきながらも、柄、パターンを空間の中、またはグラフィックとして取り込んでいることを評価しました。ジャンルはグラフィックとなっていますが、これはまさしく空間やビジュアル的なものとも連動した作品と言えるのではないのでしょうか。そういう点が評価されたのだと思います。

ほかに僕が建築で少し気になったのは、「小さく広い家」です。建築というのは得てして奇抜な形で表現しがちなのですが、この作品はそうではなく、非常に些細なことなのですが連続性や外との関連に配慮し、相乗効果を持たせるような素材を巧みに配しながら、何となくほんわかとした空間が構成されています。特に前面の道路に対しての表現にそれが見られますが、京都というのはそういう所なのです。そういうところを押さえていらっしゃる作品として、すごく好感を持ちました。

それから「return」です。これも少し意見も分かれたのですが、僕はほっこりしたものが好きなのです。パッケージングとはそういうものだ

と思うのです。それで入れさせていただきました。

滝口 私は第2部門、繊維製品を中心としたファッションやファッション小物、着物などのデザインという部門を中心に見ていったのですが、非常にインパクトがあったのは、入選した宮井株式会社さんの「男ふろしき」です。ふろしき自体は伝統的なものですが、ネーミングの「男ふろしき」を前面に出されて、色や素材も男性的なハードなイメージを演出しておられました。

あともう一つ印象によく残っているのは、学生賞を取った京都造形芸術大学のディスプレイの作品です。これは審査員全員の意見が本当に一度でまとまりました。学生だということが非常に良い意味で出ていて若い人の力強さを感じました。細部ではなくて全体から入る勢いというか、そういうインパクトが非常に感じられて、元気があって、「こういう時代にこういうものが出てくるのはいいよね」という話が出ていました。



大賞
KRP9号館サイン計画



B部門 京都府知事賞
小さく広い家



B部門第2分野 入選
男ふろしき



B部門 学生賞賞
MEAT×GRASS

なっています。この作品はギフトに使えるセットになっていて、手ごろな値段で買えるようになっていました。みんなに使っていただくことで唐紙の持つエッセンスをうまく伝えようとしている印象を受け、伝統産業そのもののデザインをうまくされているなということを感じました。

ほかにも「季箱」という作品があったと思います。これはパネルだけの作品で、現物が無いのが残念だったのですが、非常に京都らしいデザインだと感じました。布とシンプルな木の箱だけで作られた家具で、マイナスのデザインというモダンデザイン的な発想をしながら豊かな生活のストーリーを提案しているなというのが最初の感想でした。

「刻鋺(こくはん)」という川並鉄工の作品がありました。これはアルミの板を切削して、写真を表現する技術とお伺いしています。ハードな素材とハードな技術を使って、優しいソフトなアート作品に仕上がっているというギャップが非常に面白いと感じました。

選考にもれた作品の特徴として、

B部門 京都商工会議所会頭賞
刻 鋺



物自体の完成度はそんなに悪くなく、入選や入賞されている作品とそれほど差がないように感じました。しかし見せ方として、もしくはデザインの訴え方として、周りとの空間との関連性をどう考えられたのかが分からないという点や、背景にあるものづくりのストーリーのアピールの仕方が悪いと感じた作品も多くあり、非常に残念に思いました。

島田 僕は「逆算のマーケティング」という言葉をよく使います。今、世の中がどんなものを求めているか。世の中の気分が物を作ることもあると思っています。

そんな中で目に留まったのが



A部門 京都府知事賞
還・return



B部門 京都市長賞
karakami kit



A部門 京都商工会議所会頭賞
季 箱

「karakami kit」です。今、京都に旅行で来られる方にも、お寺や神社の見物ではなく、実際に何かをやってみたいというニーズが非常に強くあります。そんな中で、この「karakami kit」は体験しながら京都を味わう。これも一つのデザインの表現だと思って見ておりました。

また、「小さく広い家」も、大体今の30～40代、それほど会社勤めでも給料が右肩上がりで伸びるわけではない。しかし、こういった家に住んでみたいと思わせる自然体の気持ちがすごく反映されていたという気がしました。

そして特徴的なのは「アート畳」です。今は中国のアリババグループというIT企業グループのジャック・マーという社長の社長室にも、畳が敷かれています。その畳に合う京座布団が欲しいという依頼が私のところに来たりするのですが、そんな新しいマーケットも今、少しずつ出てきているということで、このトレンドがこれから10年は続いていくという気がしています。

奈良 京都府でも北の丹後の方では農業が盛んに行われていますが、私が印象に残ったのは篠ファームさんの「茄子」です。これに限らず、自分なりの付加価値を付け、その売り方、流通も含むデザインにまで挑戦していることに、強い声援を送りたい気持ちです。

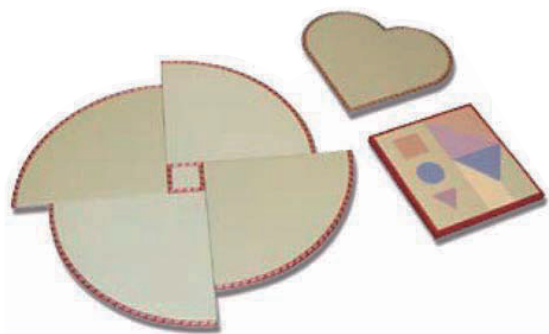
次に、市長賞を取ったSOWAさんの「ガーデン」、枯山水のお庭です。京都には名園といわれる庭がたくさんあるのですが、そんな京都というイメージをここまでシンプルに凝縮されて表現されていることに感銘を受けました。

もう1点。これからどんどん高齢化が進んでいく中で必要とされる、熊谷さんのステッキです。今日も、展示されている作品に「触らせてもらってもいいですか」と言われた年寄りの方がおられました。実際に使われる人の身になったものへの需要がこれから増えていくと思いますが、そういう要望へのご提案が評価に値すると思います。

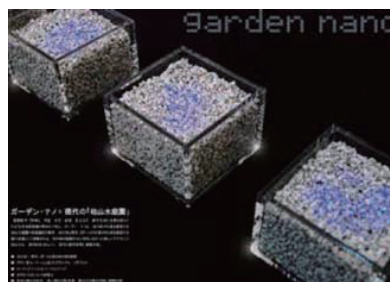
土居 今日は杉崎さんが来られていませんので、グラフィックデザインの立場からのお話がお聞きできません。大賞の「KRP9号館 サイン計画」に関して、北條さんも1票を入れられていると思うのですが、プロダクトデザインの立場からでも結構ですのでコメントをお願いします。

北條 実は私はたまたま見学会があり、「KRP9号館」の中を見る機会がありました。それぞれの部屋の中に入る際に、グラフィックと風景を廊下から見えるようにして、竹林のイメージをアピールされている点が素晴らしいと思います。また面白い点として、単に数字で部屋の番号を表すだけでなく、京都の文様を使って各部屋の表示とされていました。その柄の使い方や、実際に布をお使いになったというところに感心しました。建築も素晴らしいのですが、その建物に合わせたグラフィック計画ということで、建築設計とグラフィック計画がよく合っていて、一体として表現されていたところが良かったと思います。

B部門第3分野 入選
アート畳、円形薄畳、ハート形薄畳



B部門第3分野 入選
手にしっかりとなじむステッキ(杖)

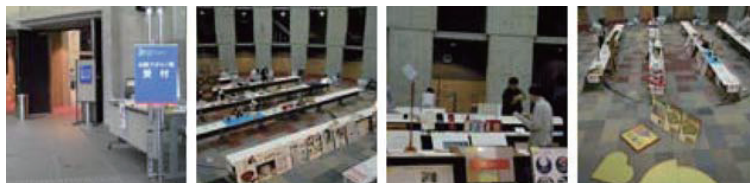


A部門 京都市長賞
garden-nano ver.3.0k

土居 もう一つ、「波襲」ナミヒダにも票を入れられていたと思うのですが、この作品に関してもコメントをお願いします。

北條 「波襲」という作品は、京都のすだれを使っています。すだれでも、生の素材をそのまま使うのではなく、紙のようなもの、もしくは色の異なったものをお使いになって、バリエーションが作られていました。ただ、これもパネルだけで展示されていました。空間性などを非常によく考えて作っておられると思いますが、展示として見た場合に、どういう空間と合わせて、どういう商品として提案されているのが分かりづらかったのが残念です。

土居 島田さんは、仕事柄、常に商品を売るという目線で見られていると思うのですが、そういう意味で点を入れられた「garden-nano」「世界の茄子シリーズ スティックテイスト」「携帯写経御道具」の3点についてコメントをお願いします。



島田 まず「携帯写経」ですが、写経は今、海外や全国から来られる観光客の人にとっても人気です。これを携帯、モバイル的に作られたことが非常にユニークだと思いました。例えば「サライ」や「Casa BRUTUS」という雑誌でも、京都をただ観光するのではなく、実際に体験して京都を学ぼうという記事が出ていて、雑誌の読者の間で知的好奇心が高まっています。それと同時に、例えばインドから来た旅行者の人も写経には非常に興味を持たれているので、持ち帰れるというのは非常に面白いアイデアだと思います。

「karakami kit」も同じ文脈の中に含まれます。あとは、篠ファームさんの「茄子」です。これは茄子と同様に、唐辛子の色とりどりのセットも出展されていたのですが、やはりビジュ

アルの見栄えの良さが心をつかむ、エモーショナルな気持ちにさせるということがあるかと思います。

土居 京都デザイン賞2010では素晴らしい作品が集った訳ですが、来年も引き続き開催する予定です。そこで審査員の方々に京都デザイン賞について、皆さんが作品応募に当たって留意するところ、ポイントとなるところなどをお伺いしたいと思います。

島田 これからますます外国の方が日本に旅行で来られるケースが増えてくると思うのです。そのときのポイントは、やはりシンプルに相手にメッセージが伝わることで、それはグラフィックでもファッションでもプロダクトでも同じだと思います。多くの言葉を交わさなくても、その



B部門第3分野 入選
波襲 - ナミヒダ -



B部門第3分野 入選
世界の茄子シリーズ スティックテイスト



B部門第3分野 入選
携帯写経御道具「阿吽」

ものの良さを分かってもらえることが大事です。これはもうアジアの方も欧米の方も、皆さん同じことを言われます。

もう一つは、われわれ以上に京都や日本のことを勉強して来られる海外の方々が多いので、それにわれわれも負けられないようにというのは大げさですが、うまく波長を合わせていけるようなものが、今後出てくるといいかと思っています。

北條 現在、デザインが単に色や柄や形、表面的なものだけの良い、悪いということで評価されているのではない、ということに留意していただければと思います。「関係性」ということがひとつのキーワードになります。社会との関係性、空間との関係性、時代との関係性を、どう考えておられるかというのが評価のポイントになると思います。

また、同じ商品を出される際にも、単に表面のパッケージだけを見ていただくとか、表面の形だけで審査を受けるというのではなく、どういう商品をどういうシステムでお作りになっているのか。どういう空間を作ろうと思ってその商品を考えておられるのか。そういうところをアピールしてい

ただいたらいと感じています。

滝口 第2分野の出品数が、ほかのジャンルに比べて毎年少ないのです。ですから、来年はぜひたくさんのご応募があればと期待しています。特に第2分野は繊維素材を扱うことが多いのですが、伝統的な技術力や素材は少し完成されすぎた面があります。それはある意味ではいいことなのですが、デザインにとっては妨げになっているように感じるケースもありますので、完成されたものを少し見直すというのでしょうか、違う視点から、あるいは違うジャンルのデザイナーの視点も加えながら、新しい商品開発をしてほしいと思います。やはり前提としてまず素材があり、次に技術があって、それからデザインがあるわけですが、デザインの部分、提案の部分の少し弱いものが見られたように思います。

新井 僕は都市や建築の分野からコメントしたいと思います。まず、このデザイン賞に、去年に比べて建築から非常に多く応募されたことは、喜ばしいことだと思います。建築や空間は、物に比べて対象が大きいので、パネルでの展示になります。しかし、

僕が思うに、今の世の中では、建築や空間についてデジタルの技術を使った制作が世界の超一流の人たちの間で頻繁に行われているわけです。先日もアメリカの建築家の事務所を拝見したところ、モニターで中国やヨーロッパのものをしながら設計していました。僕は、これでローカルティやリージョン、地域性を出していけるのかと非常に疑問を持ちました。CGを使えば、世界中ほとんど同じものができるわけです。ですから、今後はローカルティや特性といったものがますます大事になっていくのではないかと。

そのときに真価が問われるのは、細部まで行き渡った心を通わせる空間ではないかと思っています。京都デザイン賞はそうであってほしいと思いますし、またそういうことで京都のブランド力を高めていく、こういう賞であってほしいと思います。

奈良 今回も、第1回に増して建築部門の応募をたくさんいただきました。大手ゼネコンからの出品もいただいています。建築物そのものは、今の時代を十分考え合わせた上で設計し、提案され、造られていると思うのですが、周りとの関係、特に京都と



新井清一氏



滝口洋子氏



北條 崇氏

いうまちの中にそのものが建ったとき、その存在が京都にとってどうなのか。新井先生がおっしゃいましたが、今はシミュレーションが技術的にも簡単にできるようになっていますので、今までのものとの調和をどう図っていくのかということに視点を置いたご提案をしていただければ、われわれとしても大変ありがたいと思います。特に建築物というのは、街中で大きな存在になりますので、その点に留意して判りやすくプレゼンをしていただければ、後に続く人たちにも役に立つと思います。

また、異業種交流が新しいものを生み出すきっかけにもなりますが、ご自分の専門分野以外の、例えばグラフィックデザイナー、建築家、テキスタイルデザイナー、鉄工所のおやじさんとの交流から、新しい発想が生まれてくることを期待します。今日来ていただいている皆さんは、ものづくりという部分で共通項があり、交流がどんどん深まっていけば、本当に強いものを新たに打ち出していけるのではないかと思います。

われわれデザイン協会のメンバーも、今日は高いところから皆さんにお話しさせていただいていますが、平場で仲間に加えていただけるよう



に、お願いしたいと思います。

土居 もう少し時間がありますので、会場にいらっしゃる方で審査員の方々に質問したいという方がいらっしゃいましたら、挙手をお願いします。

熊谷(受賞者) 私どもがデザインしたステッキを評価いただきまして、ありがとうございます。先ほど新井先生もおっしゃられましたように、京都デザイン賞は「京都」を一つのキーワードとして成り立っていると思うのですが、果たして京都と

は一体何かというところが、皆さんがデザインするときに難しいポイントだと思うのです。私の場合、ステッキに京都をどう出せというのかと、実は悩みました。実際そうなのです。いくら考えても分からないのです。アイテムによって、非常に京都が表現しやすいアイテムもありますが、ステッキのように非常にインターナショナルな、京都というのが表現しにくいものの中にはあると思うのです。

最後はエイヤーということで、僕は京都で生まれて育った、自分の血の中、DNAの中に京都が流れてい



島田昭彦氏



審査委員長 奈良磐雄(KDA理事長)



コーディネーター 土居英夫(KDA常務理事)

るということで、諦めた状態で出品させていただいたのです。ですから、審査員の先生方を選んでいただいたことを、逆に評価させていただきたいと思います。

そこで、「京都」というキーワードをどう考えたらいいかということ、どなたか先生にお聞きしたい。タイトルに「京都のデザイン」とありますが、デザインof京都なのか、デザインfrom京都なのか、デザインoutof京都なのか、その辺の定義付けといいですか、ヒントをいただければ今後の参考になると思うのです。よろしくをお願いします。

土居 では、まず最初にばりばりの京都人でいらっしゃる島田さんからお答えいただきたいと思います。

島田 僕は標準語で話していますが、実は実家は、着物に家紋を手で描く紋章工芸という仕事を、父親、祖父と、先祖代々数百年やっております。そんなDNAの中で熊谷さんがおっしゃった京都らしさとは、攻めることだと思っています。伝統は革新の連続。常に革新、何か変化を持たせて挑戦していくこと。このステッキも、手にしっかりとなじむステッキで、京都らしい体様があるのですが、デザイン的には非常にチャレンジされていると拝見しました。ですので、京都らしい温かみのある要素と、それをベースにしながらも何か挑戦している。東京ではなく大阪ではない、京都が次の時代をリードしているような、そんなメッセージが込められているのが京都らしさのかなと思っています。

土居 「京都」とは何なのかということは大変に難しいことだと思いますが、審査員の皆さんがお考えになる「京都」についてお話しただけませんか。

北條 まさに今、島田さんがおっしゃったように、攻めるというのが一つ京都の特徴だなとも感じます。伝統のある街で伝統とは全く関係なく新しいことをするというのではなく、伝統を下敷きにその上に新しいことをするというのが、ほかの都市にないほかの国にない特徴なのではないかと感じます。

このステッキも、合板でお作りになっていますが、使いやすいステッキというのは、多分ほかにもあると思うのです。しかし、これは非常に簡単に作れて、多分そんなに値段もかからずに安全に使えるのではないかと思います。そういう全体の気配りも、京都らしいところなのではないかと思っています。

滝口 非常に難しい質問をいただいて、悩んでしまいます。よく京都らしいデザインということで西陣織の柄を付けたものなどが見られますが、そういう表面的なことではないと思うのです。京都の特徴とは、1200年という長さの歴史によって培われた文化的な背景がありますから、目先の利害に走るのではなく、やはり人のために文化的な要素を持ちながら、続けてきていることにあると思います。また、それが根本にあると私たちは感じましたので、熊谷さんの作品を京都デザインとして選ばせていただきました。

確かに奈良も1300年で、伝統がある京都以上に古いまちなのですが、奈良の場合には歴史のまちになっているのです。京都の場合は、歴史が1200年あっても今のまちです。そこに違いがあるように思います。伝統とともに革新というか、新しいことにチャレンジしていく。それが最前線だけでなく時間の厚みを持っているところが、非常にポイントではないかと思っています。

新井 僕は京都の大学で教えているだけで、本当に門外漢というか、ほとんど海外で過ごしている人間なので、何とも言い難いのですが。先ほどお話ししたような観点から言っても、日本と言うと京都がすぐに挙がってくるわけです。つまり、日本の心として外国の方は京都を見ているわけで、東京と言うと近代都市、京都と言うと古い都市という二極化で表現されます。

私がいろいろな国を訪れてみても、1200年もたつてこんな大きなまちがあるところはあまりないわけですね。この間、いろいろな戦(いくさ)があったり、いろいろな変革があったりしましたが、京都は新しいものの好みのまちでした。いろいろなものを取り入れてきている中で伝統をはぐくんできているわけなので、一概にこれが京都ということは、多分言えないと思います。

僕の中で思っているのは、すごく繊細な細やかさです。どこの空間へ行っても何か寒い。その空間の中に何か必要とされるものがあるという、その反対にあるのが京都だと思います。例えば町家も、税制の問題で間口が小さくなって、それから長



くなったということで、「うなぎの寝床」と言われるようなものができています。その必然性があったから、隅々まで光を入れながら、その光を見ると明るく見える。また、夜の中にちょっと光だけでもそこに光が届いているという、その心があるように思えてなりません。

先ほどの答えですが、京都デザイン賞では「京都」というものを全部意識しなければいけないかというところではなくて、一つのキーワードとして意識してもらえればと思います。そのほかにも、斬新であるか。京都は本当に斬新なものをクリエイティブしてきました。それから、提案として非常にユニークであるか。それが絶対的にあると思います。

ステッキに関しては講評の中には入っていないのですが、いろいろな先生方、審査員の方々、京都市の方々の意見を聞きながら、議論を戦わせていくというのがこのデザイン大賞なのです。つまり、空間からグラフィックやいろいろな小物など、広域のものを対象にした協議の中で、京都デザイン賞では、先ほどお話ししたように、心が感じられるというこ

とを僕は大切にしていきたいと思っています。

奈良 本当に言葉で説明するのは難しいのですが、私自身、京都生まれの京都有ちで、63年間過ごしてきましたので「私が京都です」と開き直って言うってしまうような部分もあります。やはり比較の問題だと思います。日本の中の京都、あるいはアジアの中の京都、そしてもっとヨーロッパやアメリカとの比較での京都と考えたときに、京都とは何かというと、シンプルであると思うのです。それと、温かみがある。そして、温かみと通じるかもしれませんが、人に優しい部分が十分に感じられる。そう考えると、やはり心が形に表れることが、またそれを現していくのが、デザイナーであり周辺の人々の仕事なのではないでしょうか。

それと、京都にはすご腕の伝統産業に関わっておられる職人さんがたくさんおられる。その方々とのコラボレーションは必須だと思います。高齢化が進み伝承者もなくその技もなくなっていくという淋しい状況が進行中ですが、意識のあるわれわれが何と

か継承しながら新しい提案を作り、若い人たちにまたつないでいくという、このつながりが京都にはまだあるのではないのでしょうか。市民も行政も企業も、みんながそれを望んでいるというか目指しています。それが京都の特色の一つでもあると思います。そして、こういったコンペティションをやる、良いものを日向に出していくこと、こういうデザイン運動に応募するという形での参加も結構京都市的という感じがします。

土居 先ほど島田さんのお話にもありましたように、伝統の連続が革新を生むということが、京都でものづくりする上で重要なことではないかと思っています。

来年もまた京都デザイン賞2011ということで開催して参りますので、今日このシンポジウムで話し合われたことを参考にして頂き、是非来年も作品を提出していただきたいと思っています。そしてまた、京都デザイン協会の今後の活動にもいろいろとご協力をお願いします。今日は本当に長い時間ありがとうございました。



賞	氏名	作品名	分野詳細
大賞	株式会社日建スペースデザイン(米澤研二・今井充彦)	KRP9号館 サイン計画	グラフィック
京都府知事賞	董衍(京都嵯峨芸術大学)	還・return	パッケージ
京都府知事賞	井上昌彦(L.V.M.計画一級建築事務所)	小さく広い家	建築
京都市長賞	Hal SOWA Ph.D.	garden-nano ver.3.0k	環境
京都市長賞	株式会社丸二	karakami kit	プロダクト
商工会議所会頭賞	太田道夫	季節	プロダクト
商工会議所会頭賞	川並鉄工株式会社	刻版(ごくはん)	プロダクト
学生賞	京都造形芸術大学	MEAT×Grass	ディスプレイ
入選	長谷川真波(京都嵯峨芸術大学)	京Rコード	グラフィック
入選	上本佳波(京都嵯峨芸術大学)	待ち合わせセッコ	パッケージ
入選	玉村有以(U・N・I Design & Project)	清包〜さやけきくるみ〜	パッケージ
入選	藤尾友理子(京都嵯峨芸術大学)	京つつみ	パッケージ
入選	堀野美雪 京間灯	京間灯	プロダクト
入選	(株)丸二 アクリル行灯	アクリル行灯	プロダクト
入選	南丹市社会福祉協議会あじさい園	ど・丹波クッキーシリーズ	パッケージ
入選	青山高久・谷真也・中村圭佑・森田久美子・渡部明彦(京都造形芸術大学)	南区東九条地域の辻の活性化計画	環境
入選	吉靴房	『御沓(おくつ)』吉靴房×SOU・SOU	プロダクト
入選	絹あそび橋本修治商店	絹ふくれ襷	ファッション
入選	杉本幸子	正絹スカーフ	テキスタイル
入選	宮井株式会社	男ふるしき	テキスタイル
入選	大和功典	ひょうたん→コマ	キモノ
入選	(株)茶匠井六園	有心銘茶「禅の詩(こころ)」	パッケージ
入選	京すだれ川崎 波襲	一ナミミダー	プロダクト
入選	(株)熊谷設計事務所(熊デザイン工房)	手にしっかりと握るむす Stecki(杖)	プロダクト
入選	(有)篠ファーム	世界の茄子シリーズ スティックテイスト	パッケージ
入選	(株)松栄堂	Xiang Do~un tiers~(シアン ドゥ アン ティエル)	プロダクト
入選	(株)尚雅堂	携帯写経御道具「阿吽」	プロダクト
入選	(有)西村松寿堂 島 明彦	銅 燈花器	プロダクト
入選	(有)量工房ヨシオカ 吉岡芳憲	アート壺・円形薄壺・ハート形薄壺	プロダクト
入選	(株)大林組(株)E-DESIGN	京染会館/京染の庭	建築
入選	アルバック(株)地域計画建築研究所	白梅町の家 和と洋のコラボ	建築
入選	究建築研究室 柳沢 究	荒壁を廻る家	建築
入選	(株)高松伸建築設計事務所	同志社小学校	建築
入選	(株)竹中工務店 須賀定邦	福寿園京都本店	福建築
入選	(株)竹中工務店 鍋谷めぐみ	ニッセン四条新町ビル	建築
入選	(株)日建設計	KRP9号館	建築
入選	(株)松田平田設計+(株)高松伸建築設計事務所	京都市伏見区総合庁舎	建築
入選	森田一弥建築設計事務所	Shelf-Pod/君府亭	建築



■ 主催

(社)京都デザイン協会

■ 後援

京都府

京都市

京都商工会議所

(財)京都産業 21

京都府中小企業団体中央会

京都市立芸術大学

京都意匠文化研究機構

京都新聞社

NHK 京都放送局

KBS 京都

エフエム京都

■ 協力

(株)染織と生活社

(株)田中直染料店

府庁旧本館利用応援ネット

■ 協賛(賛助会員)

(株)アウラ

市田(株)

(株)エクザム

(有)画箋堂

カミヨ(株)

(株)京都銀行

京都信用金庫

京都中央信用金庫

京都百貨店協会

(株)聖護院ハツ橋總本店

(株)竹尾大阪支店

(株)田中プリント

(株)千總

朝陽堂印刷(株)

日本写真印刷(株)

(株)半兵衛塾

富士ゼロックス京都(株)

平和紙業(株)

山内紙器(株)

吉忠(株)

六和証券(株)

(株)若林佛具製作所

■ 協賛

(株)祇園平八

京都造形芸術大学

京都精華大学

京都芸術デザイン専門学校

京都嵯峨芸術大学

大阪成蹊大学 芸術学部

イワモトエンジニアリング(株)

高島屋スペースクリエイツ(株)

刀剣 開陽堂

(株)フクナガ

(株)アートバンク

aRC FURNITURE POINT

薨技塾 徳舂瓦店(有)

(株)かわな工業

北白川天然ラジウム温泉

(株)キヌガワ京都

(株)教材研究所

協同組合京のほんまもん塾

地主神社

(株)スイッチ・ティフ

(有)高橋写真製版

(株)TNC プライダルサービス

(株)ナカタニ工務店

(株)西村工務店

BAL 中澤(株)

三浦照明(株)

(株)ワイズコーポレーション

審査委員長 奈良 磐雄

実行委員長 土居 英夫

実 行 委 員	エリック・ルオン	小山比奈子	辻中 進
	大石 義一	才門 俊文	藤原 義明
	大野 好之	田中 聡	古川加津夫
	川口 凱正	高濱 豊	松原 出
	後藤 圭美	辻 勇佑	山岡 敏和

表彰式・シンポジウム テーマ「新しい京都のデザイン」

Graphic design	田中 聡
Editorial design	小山比奈子
Photograph	エリック・ルオン
	大野 好之
	小山比奈子

発刊日 平成23年5月
発 行 社団法人 京都デザイン協会
〒604-8247 京都市中京区塩屋町39 (三条通小川西北西角)
TEL.050-3385-8008 FAX.050-3385-8009

本誌掲載の記事・写真などの無断転載を禁じます。



社団法人 京都デザイン協会

〒604-8247 京都市中京区塩屋町39(三条通小川北西角)

TEL:050-3385-8008 FAX:050-3385-8009

URL:<http://www.kyoto-design.net/> E-mail:info@kyoto-design.net